

「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

「地理的な見方・考え方」*を働かせた考察ができるよう、資料や本文を工夫しています。教科書の巻頭8では、「地理的な見方・考え方」とは何か、具体的な事例を示しながら端的にわかりやすく説明しています。

* 「地理的な見方・考え方」とは、「位置や分布」「場所」「人間と自然の相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の5つを指します。

ポイント

見方・考え方アイコン

見方・考え方 アイコン 地域の特徴 (→巻頭8)

NEW

「見方・考え方アイコン」掲載ページ一覧(全21か所)

ページ	地理的な見方・考え方
p.13	位置や分布
p.25	位置や分布
p.42	人間と自然の関わり
p.62	地域の特徴
p.78	地域の特徴
p.88	地域の特徴
p.90	他地域との結びつき・地域の特徴
p.104	地域の特徴
p.116	人間と自然の関わり
p.126	他地域との結びつき
p.150	人間と自然の関わり・場所
p.165	分布や地域の特徴
p.180	人間と自然の関わり
p.196	他地域との結びつき
p.212	地域の特徴
p.214	場所・地域の特徴
p.230	地域の特徴
p.246	地域の特徴
p.262	地域の特徴
p.278	人間と自然の関わり
p.281	人間と自然の関わり・地域の特徴

「学習を振り返ろう」ページでは、単元の振り返りで働かせる「地理的な見方・考え方」を、「アクティブ地理」ページでは、課題に取り組む中で働かせる「地理的な見方・考え方」を、「見方・考え方アイコン」で示しています。(全21か所)



↑巻頭8

どこにあるのだろうか・どのように広がっているのだろうか

位置や分布

京阪神大都市圏と水の都、大阪 都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。

例)「千里ニュータウンはどこにあるのだろうか？」

→大阪府の西部に位置する。

例)「京阪神大都市圏はどのように広がっているのだろうか？」

→京都・大阪・神戸を中心に広がっている。

どのような場所だろうか

場所

例)「京阪神大都市圏はどのような場所だろうか？」

→東京大都市圏に次いで人口が集中しており、大阪を中心に交通網が周辺に伸び、沿線に市街地が広がっている。1960年代には郊外にニュータウンが建設された。

京阪神大都市圏と水の都、大阪 都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。大阪市を中心に鉄道や道路が周辺に伸び、沿線に市街地が広がっています。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地に千里・泉北・須磨などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで迫っていて平

どのような特徴がある地域なのだろうか

地域の特徴 (地域)

例)「京阪神大都市圏の特徴は？」

→京都・大阪・神戸を中心に広がり、多くの人口が集中している。その人口を支えているのが琵琶湖を水源とする琵琶湖・淀川水系であり、流域の水質保全のための取り組みが行われている。

他の場所とどのように結びついているのだろうか

他地域との結びつき (空間的相互依存作用)

例)「京阪神大都市圏のつながりは？」

→琵琶湖が水源となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域の環境保全が重要な課題となっている。

琵琶湖・淀川 琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。

人々の生活は、周囲の環境とどのように関わり合っているのだろうか

人間と自然の関わり (人間と自然の相互依存関係)

例)「琵琶湖・淀川の水質保全のために、京阪神大都市圏ではどのような取り組みが行われているのだろうか？」

ようになり、水道水への影響が問題になりました。このため、琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場廃水の制限に取り組みました。その結

きました。近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天

→過去に琵琶湖周辺の住民は、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかけ、県も下水道の整備や工業排水の制限に取り組んだ。近年はヨシを湖岸に植え、水質改善に取り組んでいる。

【例】p.204-205 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖・淀川 琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。

琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場廃水の制限に取り組みました。その結果、琵琶湖に流れ込む水質を悪化させる物質は、徐々に減少していき、近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天

琵琶湖周辺の住民は、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかけ、県も下水道の整備や工業排水の制限に取り組んだ。近年はヨシを湖岸に植え、水質改善に取り組んでいる。

その他の特色 「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

地図帳やさまざまな資料を活用しながら「地理的な見方・考え方」を働かせて考察できるよう、「地図帳活用」アイコンや「技能をみがく」を設置しています。

ポイント

地図帳の活用

地図帳との連携を図ることで、位置や分布、他地域との結びつきなどを地図上でとらえ、学習をより深められるようにしています。また、「地図帳活用」アイコンを全56か所(p.3、16、26、72、128、156、175など)に設置し、活用を促しています。



すてい高での木だね！

「吉野すぎ」は、樹齢100年以上のものもあるんだって

→「吉野すぎ」の伐採 (奈良県川上村、2017年7月)

5 環境に配慮した林業と漁業

近畿地方では、森林の保全や水産資源の保護のために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

林業が盛んな紀伊山地

雨が多く温暖な気候が木の生育に適している紀伊山地には、豊かな森林が広がっています。急峻な山岳地帯であるにも関わらず、森林の多くは人が育んだ人工林で、すぎやひのきなどが植えられています。これらの人工林では、樹木の成長に合わせて伐採と植林が繰り返され、枝打ちや間伐などの手入れが行われ、木を育てる業者が、木から行われてきました。特に奈良県の「吉野すぎ」や三重県の「尾鷲ひのき」は、色美しく香りもよいことから、建築材や家具などに加工され、高品質な木材のブランドとして知られています。

林業の課題とその対策

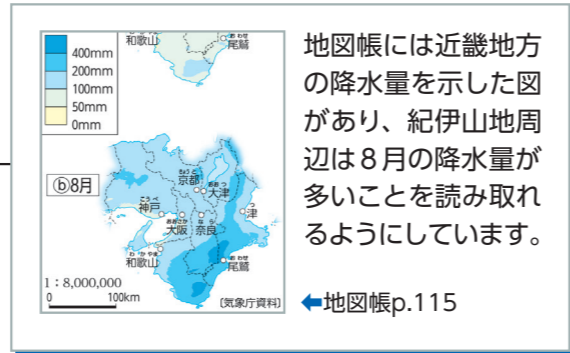
紀伊山地の森林には、出荷に適した樹齢60年ほどのすぎやひのきが豊富にあります。しかし、安い外国産木材の輸入が増えたことで、木材価格が低迷したため、伐採量はほとんど増えていません。

また、山間部では高齢化によって林業の働き手が減り、森林を管理する技術を受け継ぐ後継者が不足しており、荒れてしまう森林が増えています。そこで新たに林業に従事する人を増やすために、林業の知識や技能が習得できるよう国が支援する「緑の雇用」制度や自治体独自の支援制度が設けられています。これらを利用して林業の仕事に就く人が増え、山間部に移住してくる人もみられるようになりました。

地図帳活用

三重県熊野市の林業の様子を確認しよう。

210 小学校・歴史 市民・他教科との関連 日本の森林水産業(小) 地球温暖化(小・歴・公)



地図帳には近畿地方の降水量を示した図があり、紀伊山地周辺は8月の降水量が多いことを読み取れるようにしています。

←地図帳p.115



↑地図帳p.104

地図帳には「吉野すぎ」や「尾鷲ひのき」の産地のイラストがあります。

12 尾鷲の林業

多様な役割と森の恵み

水を蓄える

木材を蓄える

木材を供給する

人々のレクリエーション

漁業を助ける

自然林・二次林

人が樹林などを行わない森林で、水溜りや薪割りに利用される。

人工林

人の手によって樹林や伐採が行われる森林。

水源保護林

災害防止林

森林地

吉野熊野国立公園(森林保護指定区域)

土砂崩れを防ぐ

森林の役割

日本の木材供給量の変化

日本の木材の輸入先

尾鷲市による植林活動

←地図帳p.116

ポイント

技能をみがく

写真や地図、グラフを読み取る技能を確実に習得できるよう、「技能をみがく」を全21テーマ設置しています。

技能をみがく 11 主題図の読み取り方

地図には、地形図(p.130)や日本全国のように、地形や地名、道路などのさまざまな情報を、特定のテーマに集約することなく描いた一般図のほかに、特定のテーマを詳しく描いた地図があり、これを主題図といいます。なかでも、統計資料を地図に表したものは、統計地図ともよばれます。

地理の学習では、統計資料を読み取るだけでなく、その分布の傾向から、地域の特徴をつかむことも大切です。統計地図には、表した統計資料の種類によって、さまざまな表現方法があります。また、複数のテーマの統計地図を比較すると、1枚の統計地図からは分らなかったことが読み取れることがあります。

やってみよう

- 図11の統計地図を見て、日本企業の進出が多いのはどの辺りか、答えよう。
- 図11の統計地図を見て、人口密度が高いのはどの辺りか、答えよう。
- 図11のAとBの統計地図を比較して、降水量と小麦の生産には、どのような関係があるのか、答えよう。

さまざまな統計地図

- ① **ドットマップ**…分布地点の数を点(ドット)で表した図です。人口や生産量などの集中の度合いが読み取りやすくなります。
- ② **等値線図**…等しい数値の地点を線で結んだ図です。気温を示した等温線図、降水量を示した等降水量線図などがあります。
- ③ **面積表現図**…円や正方形などの図形やイラストの大きさによって、地域ごとの統計数値を比較できるようにした図です。
- ④ **階級区分図**…地域ごとの比率や密度を、色や模様などで表現した図です。

線がかけられている所に注目すると、南部で降水量が多く、北部で降水量が少ないことがわかります。

点(ドット)が集まる所に注目すると、西部よりも東部で米や小麦の生産が進んでいることがわかります。東部のなかでも、北側では小麦、南側では米を生産していることがわかります。

円が大きい所に注目しよう。

階級によって分けられている色に注目しよう。

↑p.44

主題図の読み取り方

主題図の読み取りに関する技能を身に付けられるようにしています。主題図が多く登場する、第2部第2章「世界の諸地域」の学習の前に設置しています。

地形図の使い方

地形図の読み取りに関する技能を身に付けられるようにしています。地形図は、地域調査で使用することを想定し、第3部第1章「身近な地域の調査」の中に設置しています。

技能をみがく 14 地形図の使い方③ ~等高線と断面図~

地形図には、土地の高低を表すために、地表の同じ高さの所を結んだ等高線が描かれています。等高線には、さまざまな種類があり、その種類によって読み取り方が異なります。等高線の間隔が広いほど地表の傾斜は緩やかで、等高線の間隔が狭いと傾斜が急になります。山頂や等高線の途中にある数字は、その場所の標高を示しています。

やってみよう

図14の断面図を完成させ、等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確かめよう。

断面図をつくろう

↑p.133

「技能をみがく」掲載ページ一覧(全21テーマ)

ページ	タイトル
p.5	地図帳の統計資料の使い方
p.9	緯度・経度を使った都市の位置の表し方
p.11	地球儀での距離と方位の調べ方
p.12	地図帳のさくいの引き方
p.12	世界の略地図の描き方
p.17	時差の調べ方
p.24	日本の略地図の描き方
p.27	写真の読み取り方
p.29	雨温図の読み取り方
p.43	グラフの作り方
p.44	主題図の読み取り方

ページ	タイトル
p.130	地形図の使い方① ~地図記号と縮尺~
p.132	地形図の使い方② ~「地理院地図」~
p.133	地形図の使い方③ ~等高線と断面図~
p.133	地形図の使い方④ ~新旧の地形図の比較~
p.135	ルートマップの作り方
p.137	調査ノートの取り方
p.137	聞き取り調査の手法
p.153	人口ピラミッドの読み取り方
p.292	展示発表のしかた
p.293	プレゼンテーション資料の作り方